



久慈駅で行われた北リアス線の出発式



ありがとう!

三陸鉄道 開業40周年

三陸鉄道は走り続けます



三陸鉄道は、令和6年4月1日に開業40周年を迎えました。「三鉄」の愛称で親しまれ、昭和59年4月1日の開業から三陸沿岸地域の住民の通勤・通学や買い物の手として、観光の手段として三陸沿岸地域をつないできました。三陸鉄道のこれまでの歩みを振り返ります。

誕生までの歩み

三陸に鉄道建設の声が出たのは、明治29年に発生した明治三陸大津波。復興や沿岸地域の開発などを理由に整備が進められました。順調に整備が進められていましたが、日本国有鉄道（現在のJR）の経営状況が悪化。赤字路線の廃止が進められ、盛、宮古、久慈線の3つの路線が廃止路線に指定されました。県と関係市町村が協議した結果、第三セクターの会社を設立し、鉄道を継続する方針を決定。昭和56年11月に三陸鉄道株式会社が発足し、未開通区間の整備が進められました。

三陸鉄道開業

昭和59年4月1日、盛―釜石をつなぐ南リアス線（36・6キ）、宮古―久慈をつなぐ北リアス線（71・0キ）の2つの路線を持つ鉄道会社として開業しました。開業初日は、久慈、宮古、釜石、盛の各駅で出発式が行われ、1日で約1万3千

人が乗車しました。開業した昭和59年度の乗車人員は約268万人に上ります。開業から10年は黒字経営が続きましたが、沿岸地域の人口減少、モータリゼーションの普及なども影響し、利用者は徐々に減少。令和4年度乗車人員は61万人と初年度の4分の1以下に減っています。

東日本大震災が発生

平成23年3月11日、東日本大震災が発生。線路や駅舎の流失など、被災力所は317カ所に上り、三陸鉄道は壊滅的な被害を受けました。社員は限られた人員の中で作業、安全確認を行い、震災から5日後の3月16日には陸中野田―久慈間の運行を再開。災害復興支援列車として3月中は無料で運行され、被災者やボランティアの足となりました。国、県、市町村やクウエート国など国内外からの支援により、復旧工事が進められ、平成26年4月、震災から約3年ぶりに全線運行再開を果たしました。



橋が落ち、線路が分断（旧島越駅）



トンネルへ続く線路が分断（旧島越駅）



運転を再開した三陸鉄道（田老駅周辺）

